

## 知事と区市町村長との意見交換（西東京市）

令和1年10月21日（月）

16時40分～17時00分

○行政部長 それでは早速でございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 今日は都庁までお越しいただきまして、ありがとうございます。丸山市長には以前もフレイルのことで、健康体操、なかなか椅子から立ち上がれずに、すごく私ショック受けまして、あれからちょっと練習しまして、ちゃんとできるようになりましたので。お見せしましょうか？

いろいろ都の施策に御協力賜りまして、ありがとうございます。また、都としましても長寿ということの一つのキーワードとして、いろんな観点からのアプローチをやっていきたい。それら長期戦略の中にも、長寿というキーワードを入れ込んでいるところであります。

そういった点からも、これまでも熱心に取り組んでおられる西東京市の皆さま方のビジョン等をお聞かせいただければということで、本日お越しいただいております。短い時間ではございますが、どうぞよろしくをお願いいたします。

○西東京市長 どうもありがとうございます。それでは早速、中身に入りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

下にあるヘルシーオブアライアンスですね。平成の26年7月に、西太平洋地域において日本の42自治体が入っており、台東区が62市区町村で一番早く入って、うちは26市の中では初めて入ったと。

このいわゆるチャプターは、人を健康にするためにはまちを健康にすると。では、まちの健康ってなんだと。一つはやはり教育環境の充実ですとか、それから自然を含めた環境の充実ですとか、それからやはり安心、安全ですとか、それから地域経済の向上とか。そういう水準が上がることによって、そのまちに住んでいらっしゃる方がやはり健康に繋がってくるという概念です。

スライドの真ん中にあるのは、アジアの方から生活習慣に関する視察で来られた時のものです。

これは西東京市の状況ということで、他の自治体と比べて、こういう状況ですと。

これは先ほど言った、健康都市連合に加盟して、今ちょうど合併をして19年目ですけども、第2次総合計画のの後期が今年の3月にスタートしまして、その後期計画の中にこの健康都市プログラムを設定した。従来の概念の健康、栄養、運動と睡眠というようなことだけではなくして、全世代型の交流ですとか、それから地域です。これは多分キーワードになると思いますけど、地域の拠点づくりというようなことでこのプログラムを進めて、そしてその中に今日ちょっとお話させていただく認知症のことも含めて、前に進める施策をやっているという状況です。

これは、新オレンジプランです。

これは平成 28 年の東京都の推計が 41 万。それが都では 56 万人になるということに対して、西東京市が 5,600 人ぐらいが多分 8,000 人ちょっとというような推計をしています。

東京都でもかなり認知症ということに対して取り組んでいただいておりますし、これは我々、行政が今までやってきたこと、そしてまた西東京市の医師会が、この医師会の中の公益事業として健診を受ける市民の同意を受けながら、いわゆる聴覚検査をやっていただいて、その聴覚検査のデシベルですとか、いろんなことでエビデンス等から見まして、難聴と認知症の今回論文までいきつきまして、一つのエビデンスになるんじゃないかなと思います。

それからここには認知症の地域医療センター、薫風会山田病院がたまたま市内にあるということで、北多摩北部医療圏ですからいわゆる 5 市、72 万人を統括するべき、東京都の地域それぞれのセンターの一つが山田病院というような位置付けです。

それから地域の包括支援センター、これはもうどこの自治体でも多分 2025 年問題、それから 2040 年問題に向けて、この地域包括システム若しくはセンターをどう充実させるかというような進み方をしているんじゃないかと思います。

うちは基幹型があるということではなくして、8 か所の、もう少しベースで言うと、4 つの生活圏域の中で、それぞれ 2 つ、合計 8 つの地域包括支援センターがあると。

では市民が地域包括センターに行けば、誰でも相談ができるかという話ではなくて、子供の相談はまた別の所、障害の相談は別の所ということで、2 年前から実は地域包括支援センターに、いわゆる認知症の対応ができるような職員を増員したという形で、施策は前に進めていると。

そしてここには市内にある 9 か所、多分都内全部を合わせると 400 幾つですから、多分一自治体で単純計算すれば 8 から 9 ということですが、認知症のオレンジカフェ、ここにいわゆる認知症の方、若しくは御家族の方、若しくはそこにいわゆる医療介護、そういうような方達が集えるというようなことで、今進めております。

ここもある部分かなり専門的に、医師会の専門の先生がそのプログラムに関わっていただいで進めています。

これは先ほどお話した薫風会山田病院が、北多摩北部の医療圏、いわゆる 5 市のセンターだということで、アウトリーチ事業ですとか、それから、いわゆる一般の病院との連携を図りながら、そこにいわゆる精神疾患の対応の仕方とか、そういういわゆる技術だとか、そういうことを含めて事業を展開しているというような状況でございます。

これは先ほど話した認知症のカフェの話で、これは先ほどからしている 8 か所の地域包括支援センターが市内に存在しているというような状況です。そしてここに認知症の支援推進員を増員して対応をしてきたと。そこで受ける相談件数が年間 3 万件を超えているというような状況です。

どんな相談を受けているかということで、医療に関する相談が一番多いと。その次に多いのが御家族の認知症問題ということで、その地域包括支援センターに相談件数がこのぐ

らの数字でやっている。あとはこういうような状態だというようなことです。

これは平成 25 年から 30 年までの地域包括支援センターにおける運営経費で、当然のことながら事業も膨らんできてますので、それに対してこれだけ増えているというようなことに関しても、もちろん東京都も強化推進事業ですとか、それから安心推進事業ですとか、そういうことのメニューは出させていただいております。

これは地域で、そして御本人、若しくは御家族がこの地域で暮らせるまちに対しては、どのような要求があるのかということで、一つは認知症ケアに詳しい専門職がやはり必要だよと。それから認知症の御家族を含めた介護をする方に対する相談窓口というようなことも、かなりございます。

これは小池知事も 2 月にお越しいただいたフレイル事業。これはいわゆる最終的なゴールとして、障害のある方、ない方、それから高齢者もお子さんもということで、共生社会をターゲットにしていると。そのためのサポーターになっていただいた方であります。

台風 19 号の時には金曜日の午後 4 時に自主避難所を開設させていただきました。実際において様々なタイミングだと思えますけども、5 か所でいわゆる自主避難所。練馬区の石神井川がございまして、少しその上流ということなんで、かなり東京都の警報の発令というようなことに対しての準備ということもあって、それからもう 1 か所、土砂災害警戒区域というのがありますので、そこにお住まいの方に関しては、特別に施設にということで、その間金曜日から東京都の連絡委員が今回は泊まらせていただいて一緒に、そういう意味では仕事させていただきました。

次の日の土曜日には全体で 9 か所、自主避難所ということで、最終的に今回いくつかの課題が出ましたので、それに対する特に水防、いわゆるうちは石神井川と白子川がございまして、それに対する対応を今後もまた進めていくというようなこと。

それでもその時に感じたのは、やはり地域です。その施設を開設する時うちの職員だけではなくして、その地域のその防災組織とか、親父の会とか、いろんなそういう意味では関わりのある方達が関わっていただいたというようなこともあったので、まさに地域だと思えるので、なんとかいい地域をつくりながら、それを育てていくというような形で進めていきたい。

それは認知症も同じだと思います。

**○知事** 詳細に今、長寿のための御取組についても御報告をいただきました。都の方の長期戦略 7 つの C というのを決めまして、柱になっているんですが、最初の C はチェンジとかチャレンジとか、どちらかと言うと精神的な部分でがんばりましょうというところですが、あとの C はコミュニティとチルドレンと長寿としまして、いきなり日本語になるんですが、もう世界語にしよう。今 100 歳、ライフシフトという本であるとか、ファクトフルネスという本を読みますと、もう 100 歳というのは単に日本だけではない、世界もそちらの方向に医療が進んだり、そういうお陰もあって、長寿社会になっている。

その中の日本は最も高齢化が短い時間で進んだということから、これに対してどのような例をつくっていくのかというのは、まさしく課題先進国としての在り方を示す機会では

ないかというふうに思っておりますので、ぜひ長寿をロングライフ、ロンジビティですけれども、これは日本語のまま天ぷらとか、わさびとかと同じように、長寿でストレートで通じるようにしたいという、そういう思いです。

そういう意味で以前から市長がこのフレイルや予防について、認知症について、もう具体的に取り組んでおられますので、いろいろとそこは皆さま方の知見をむしろ活用もさせていただくと。

それからこれはもう明確なファクトとして、団塊の世代が全て75歳以上に2025年になるということは、これはもう明らかな事実でございますので、それに向けて今日も地域包括ケアシステムや介護予防、フレイル、認知症対策と、いろいろ切り口でお話をいただきました。

より総合的に仕事をどうするんだ、ボランティアはどうするんだ、学び直しはどうする、これらのいくつものキーワードをうまく連携させながら、それを総合的に進めていくことが必要なんだろうと思います。

つい先日も難聴と認知症についての関連について、あるNPOの方が来られまして、補聴器についての御要望をしてくれました。そのあたりが、アカデミックにどこまで関連するのか等々、まだ研究も進められているところかとは思いますが、やはり認知症という確実に日本で、また世界で進んでいる大きな課題についての対策を、いい方法で、治すことができなくても遅らせるとか、軽減するとか、それによってケアをする家庭、家族ですね。こちらのケアが、認知症のケアでまた倒れてしまうというようなことのないように進める必要があると思います。

それから地域包括支援センターですけれども、相談支援の地域の拠点となっておりますし、それから高齢者家族からの相談に適切に対応するというところで、機能強化を図ることは重要だと認識をいたしております。

地域の様々な社会資源とのネットワークの構築が必要ということで、またそれを担う専門職の配置等に取り組む市、自治体を支援をしているところでございます。

そういった意味で非常に健康を支援するまち西東京というキャッチフレーズで、またそれを実際にいろいろと実践をされている様々な知見は共有させていただければと。長寿社会というのをぜひ国際語にして、長寿のことは日本に学べ、東京に学べ、西東京に学べというような流れをぜひつくっていききたいと、このように思っております。ありがとうございます。

○西東京市長 ありがとうございます。

○総務局長 台風19号の関係は私の方から。今回、初めて予防的に全市町村に2名ずつ職員を派遣させていただきました。どれだけお役に立ったのか、またいろいろと御意見等も聞かせていただきながら、すぐ20号、21号と来ておりますので、上流域の大雨等があれば、また被害が出ることも想定されますので、我々もしっかり連携をとってやりたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

○行政部長 そろそろお時間になります。最後に知事から一言、お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。今、局長からもお話ございましたように、もう次々と台風が来てるようでございまして、災害対策ということについてはまさしく地域との連携が必要ということでございます。

また、ラグビーは昨日は残念でございましたけれども、ベスト8まで進出したというのは、確実な一步を刻まれたというふうに思います。ラグビーということで、あのブロッサムが、プライドが光っておりますので、これからも健康増進のためにも、このラグビーというスポーツがまた定着することを期待しております。今日はありがとうございます。

○行政部長 では意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。